

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	鳥取県
推進地域名 (再委託先)	鳥取市

1 事業推進の体制

実践中心校	鳥取市立明德小学校
協力校	鳥取市内小中学校
関係機関	鳥取市教育委員会、鳥取短期大学

2 各都道府県教育委員会の取組

(1) 食育の方針（取組内容）

<p>○食に関する指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食に関する指導年間計画作成率の向上を図る。 ・指導用教材の作成と配布及び活用 ・「食に関する指導の手引き」、「学校における食育ハンドブック」の活用を促進する。 <p>○栄養教諭・学校栄養職員の資質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭研修、学校栄養職員研修の実施 <p>○学校給食における県内産食材の活用及び「県産品利用」の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消推進会議における県内産食材の活用及び県産品利用促進の働きかけ ・地場産物を活用した調理講習会の開催 ・「学校給食用食材の生産地別使用状況調査」の実施 <p>○栄養教諭の配置拡大に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭の配置による成果検証
--

(2) 実践推進地域への指導・支援内容等

<p>○栄養教諭を中核とした食育の推進を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鳥取県学校における食育推進委員会」を設置することにより事業実施を支援 ・教育局と連携し、食に関する指導全体・年間指導計画の作成について学校への働きかけを実施 ・県各関係課と連携し、「県民の日」等に地場産物や県産品を活用した食に関する指導の取組について支援 <p>○「栄養教諭を中核とした食育推進事業」の効果を全県に拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会の広報誌を通じた実践地域の取組事例の紹介
--

3 具体的な取組等について

テーマ1	食に関する指導の充実のための取組
評価指標	学校給食アンケート調査の実施により、児童生徒の食生活の傾向や特徴を把握し、年間計画書や指導案の作成に生かすことができる。
効果	アンケート結果から、朝食の摂取状況や食生活の実態を把握したうえで、献立作成計画、学年別指導計画等を作成し、食に関する指導の充実に生かす。 学校給食ソングのタイトルを小中学校児童生徒に募集したことにより、一人一人が学校給食について理解を深めるとともに、意識を高める機会となった。また、学校給食ソングCDを解説書付きで小中学校へ配布したことにより、歌を活用して学校給食や食について楽しく学ぶ、表現力を身に付けるなどの効果につながっている。

○学校給食を生きた教材として活用した、給食時における効果的な食指導

- ・「学校給食献立作成計画」「食に関する指導・給食指導 学年別指導計画」に沿って実施した。

○食に関する指導模擬授業、保護者試食会等教材発表の実施

- ・「食に関する指導・給食指導 学年別指導計画」・各学年指導案に基づいた模擬授業を実施

【小学校】

- 1年…食事のマナーについて 2年…野菜について
- 3年…牛乳・カルシウムについて 4年…地産地消について
- 5年…朝ごはんについて 6年…バランスのよい食事について

【中学校】

- 1年…カルシウムについて 2年…朝食について
- 3年…食生活と生活習慣病について



中学校給食時間の食指導模擬授業

- ・各学校給食センターで実施している保護者を対象とした試食会における教材の紹介

○食生活学習教材「食生活を考えよう」を生かした指導案（小学校低・中・高学年用）を作成

- ・文部科学省が作成した食生活学習教材から、小学校低・中・高学年用の指導案を作成し、小学校へ配布する。平成26年度から、総合的な学習の時間等を活用して、学校給食を教材として学習に取り入れることを目指す。

【小学校】

- 低学年…野菜だいすき 中学年…すききらいしないで食べましょう
- 高学年…地域に伝わる料理を大切にしよう

○児童生徒を対象にした学校給食アンケートの実施（小5、中2対象）

- ・児童生徒の食生活の実態や学校給食への理解度を把握し、食育の推進に生かすため実施

- 【一例】朝食の喫食率…「毎日食べる」87%、「週に4～5日食べる」6.5%、
「週に2～3日食べる」2.2%、「ほとんど食べない」2%
中2…「毎日食べる」の割合が83.4%

○各小中学校「食に関する指導全体計画」「学年別年間指導計画」の作成

- ・「学校給食献立作成計画」「食に関する指導・給食指導 学年別指導計画」を作成し、計画書に沿って実施した。

○食育の日、食育月間、とっとり県民の日、全国学校給食週間などの取組の充実と、「食育」の啓発活動

- ・6月食育月間食育の日…各学校給食センターが、「食育の日」について、給食時間放送原稿を作成し、所管の小中学校へ配布した。
- ・食育の日「とっとりふるさと探検日」に、市内一斉に、各地域の共通食材を使用した献立を提供し、その地域や食材について掲載した資料を小中学校へ配布した。
- ・鳥取市全国学校給食週間テーマ「ふるさととっとり再発見！～おいしく食べて楽しく学ぶ学校給食～」に沿った取り組みを、各学校給食センターで実施した。



食育月間食育の日：食指導



給食週間：らっきょう生産者交流給食

食育の日「とっとりふるさと探検」掲示資料⇒



○鳥取市オリジナル学校給食ソングの作成とCDの配布

- ・作詞は鳥取市栄養教諭・学校栄養職員、作曲は地元の専門家により作成

タイトルを市立小学校児童生徒に募集したところ、2,923人から応募があり、“とっとりっ子の

「いただきます！」”に決定

- ・ソングCDを小中学校へ配布、給食の時間等に活用



完成した給食ソングCD



給食ソング初披露（賀露小）



給食ソングタイトル募集表彰式

○給食委員会による主体的な食育の推進活動

- ・毎日、学校給食センターから発信する「今日の学校給食」「鳥取の食材」の情報をもとに、給食の時間に放送委員会の児童生徒が放送

◆残食の改善に向けた独自の取り組み

【一例】中ノ郷中学校：勝飯をテーマに、成長期におけるご飯の必要性について掲載した資料を作成し、掲示

◆全国学校給食週間の取り組み

【一例】修立小学校給食委員会が「給食ソング ダンスフェスティバル」を開催

○担任または教科担任と栄養教諭・学校栄養職員とのTTによる授業実践

- ・家庭科、学級活動などを中心にTTによる授業を実施

【一例】明德小学校：5年家庭科「元気な毎日と食べ物」、6年家庭科「朝食を考えよう」

○小中学校における保護者試食会や学校保健委員会を活用した食に関する指導の充実

- ・保護者試食会や学校保健委員会を活用して、家庭や学校での食育の推進を啓発

【一例】美保小学校：1年保護者試食会（給食時間：児童・保護者を対象に食事のマナーについての食指導、試食後に保護者のみ食育講話を実施）

テーマ2	学校と家庭・地域との連携による食に関する指導充実のための取組
評価指標	学校給食親子料理教室を実施し、地元食材についての理解や食べることへの感謝の心を育てる。
効果	実施後の保護者へのアンケート結果から、学校給食や地域の産物への理解、生産者の思いや苦勞を知る、料理することへの意欲が高まるなどの効果があった。教職員へのアンケート結果から、望ましい栄養や食事のとり方、地元食材への理解、感謝の心を持つことなどに効果があった。 児童生徒は、「自分たちで給食を作れて楽しかったので、家でも作ってみたい」「地元の特産物について考えたり、料理を作ることへの楽しさや大切さについて学んだりできた」などの感想から、学校給食や地域への理解を深めることができた。
（取組状況） ○「食育だより」「献立表」の配布及び「今日の学校給食」等の鳥取市ホームページによる家庭への情報提供及び啓発 ・「食育だより」「献立表」に、各学校給食センターで実施している献立、食指導、衛生管理等について掲載し、家庭や地域へ学校給食を通じた食に関する情報を提供した。 ・鳥取市ホームページに、市内全ての学校給食センターの「今日の学校給食」「地場産食材情報」「栄養士一口メモ」を掲載 ○給食試食会等での食育学習及び栄養教諭・学校栄養職員による食育講話の実施 ・食育講話を実施し、家庭や地域における食育推進を啓発。 【一例】明德地区健康推進協議会や食生活改善推進員対象の給食試食会で、学校給食を見本としたバランスの良い食事や学校給食用食材の地産地消について講話	

- 保護者を対象にした食に関するアンケートの実施（小5、中2保護者対象）
- 食物アレルギーをもつ児童生徒の保護者への情報提供、食物アレルギー対応への検討
 - ・平成26年度後期始業時から、卵の除去食・代替食の対応開始に向けて、学校給食食物アレルギー検討委員会で準備を進めている。平成25年度中に、学校給食におけるアレルギー対応マニュアル作成を目指す。
- 学校給食親子料理教室の開催(生産者、食品加工関係者等地域との連携)
 - ・小学校3校（日進小、散岐小、宮ノ下小）、中学校1校（福部中）で実施



日進小5年親子料理教室（農産物加工施設職員、魚加工業者職員参加）



宮ノ下小親子料理教室（全学年対象親子会）



散岐小4年親子料理教室
(河原生産グループ生産者参加)



福部中親子料理教室（らっきょう生産者参加）

テーマ3	地産地消を通じた食育の推進のための取組
評価指標	地場産物生産者の方と児童生徒による交流給食会を実施予定校12校で実施する。
効果	地場産物生産者の方と児童生徒による交流給食会を実施予定校12校で実施できた。実施後の教職員へのアンケート結果から、地場産物や農林水産業への理解、生産者や自然への感謝の心を抱くなど、「顔を見て」「話をする」ことによる効果があったと推察できる。児童は、生産者の思いや苦勞に直接触れることにより、感謝の気持ちを抱き、その食材への興味関心につながるなどの効果があった。

(取組状況)

- 地域の食材情報による献立の工夫、商品開発の提案
 - ・JA、市場、地元加工業者等からの食材情報をもとに献立を作成
 - ・加工食材学校給食供給促進会議を開催し、今後の地元加工食材の活用について検討
- 「給食時間の放送」「献立表」「食育だより」「とっとりふるさと探検ポスター」による、児童生徒への地場産物を活用した食育の推進
 - ・毎日、各学校給食センターから小中学校へ「今日の学校給食」「地場産食材」を発信
 - ・「献立表」「食育だより」に地場産食材の栄養素や旬、産地、レシピを掲載
 - ・毎月19日「とっとりふるさと探検日」に合わせてポスターを作成、市内小中学校へ配布
- 食育イベントの開催
 - ・鳥取県内の地産地消を推進するため、農林漁業団体、食品メーカー、行政により、「食のみやこ鳥取県」地産地消プロジェクト 食育イベント in 明徳小学校を開催



栄養教諭イベント説明



食品メーカーによるクイズ



特産物（白いか・らっきょうなど）試食

○地場産物生産者の方と児童生徒による交流給食会の実施

- ・小学校 10 校（日進小、佐治小、末恒小、散岐小、世紀小、倉田小、鹿野小、浜坂小、明德小、青谷小）、中学校 2 校（湖東中、鹿野中）で実施



世紀小 5 年と漁業関係者



湖東中 2 年とさつまも生産者



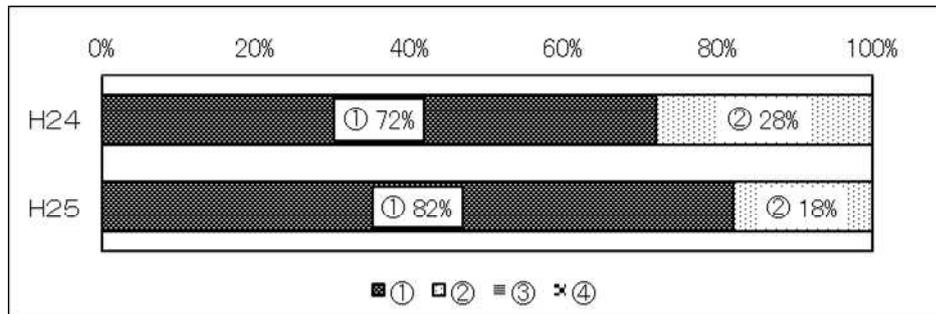
鹿野中 2 年と漁師（調理実習 & 交流給食）

～教職員対象アンケート調査結果より～

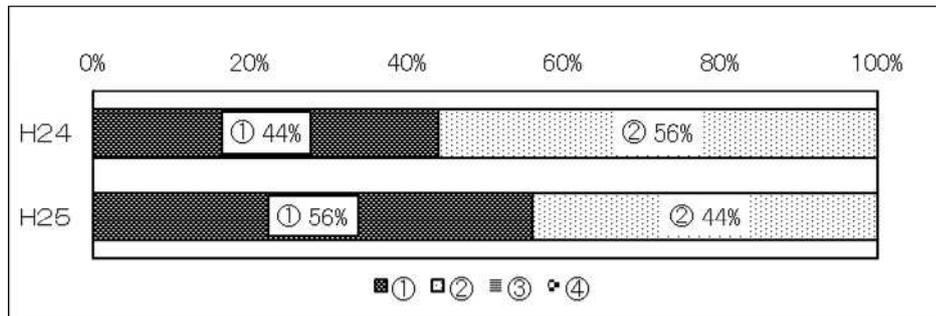
◆交流給食会により、生産者の思いや苦勞が児童生徒に伝わりましたか。

- ①伝わった ②やや伝わった ③あまり伝わらなかった ④伝わらなかった

【小学校】



【中学校】



○毎月 19 日食育の日「とっとりふるさと探検日」の取り組み

- ・市内一斉に、各地域の共通食材を使用した献立を提供し、その地域や食材について掲載した資料を小中学校へ配布するため、栄養教諭・学校栄養職員が、圃場視察、生産者の方への取材を行った。



河内さとも生産者



佐治りんご園



とっとりふるさと探検 11 月号⇒

(鳥取港：赤かれい)

○市ホームページへの掲載

(今日の学校給食、地元食材、栄養教諭等からのメッセージ)

- ・毎日、全学校給食センターの「今日の学校給食の写真」
- 「地元食材」「栄養士一口メモ」を掲載し、情報発信



○学校給食イベントの開催【地場産プラザわったいな、JA中央会、県、市・市教委主催】

- ・100人で食べる学校給食
- ・鳥取市学校給食オリジナルソング披露（賀露小学校）
- ・「とりっこ汁」無料配布
- ・学校給食地産地消クイズ大会
- ・基調講演
- ・試食販売会



学校給食○クイズ大会



100人で食べる学校給食



とりっこ汁のふるまい：長蛇の列

テーマ1～3に共通する取組

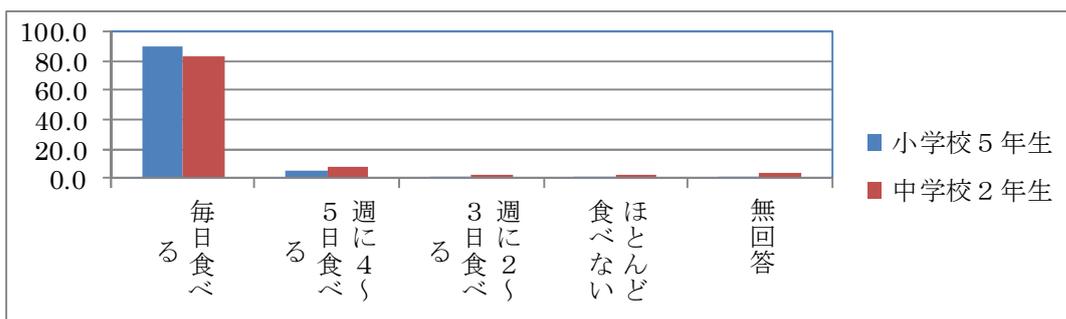
食でつなげよう学校・家庭・地域の輪～ふるさとの食を学び、楽しみ、実践するとっとりっこを目指して～

評価指標	学校給食親子料理教室実施後の保護者及び教職員を対象としたアンケート調査結果。また、地場産物生産者と児童生徒による交流給食会実施後の教職員を対象としたアンケート調査結果
効果	学校給食親子料理教室の実践的・体験的な取り組み等を通して、児童生徒が、料理することへの意欲が高まったなどの効果がみられる。地場産物を取り入れ、生産者など地域の方に参加していただいたことにより、地域や地域食材への理解を深めるのに有効である。

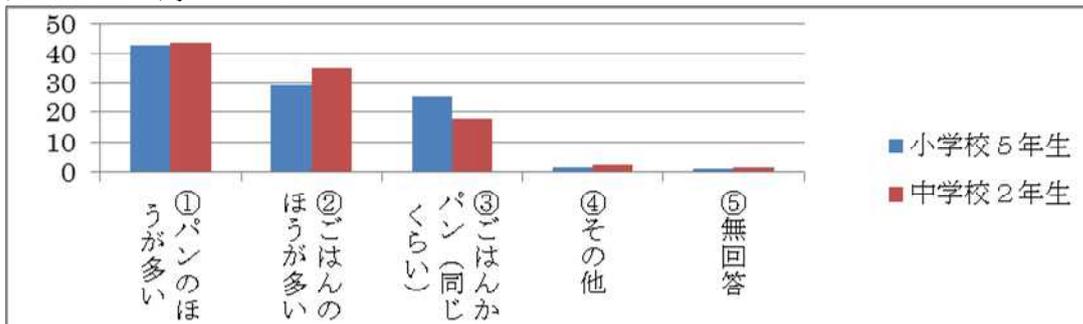
(取組状況)

○学校給食アンケートを実施（小学校5年生、中学校2年生1,700名及びその保護者1,700名対象）

◆朝食の摂取状況

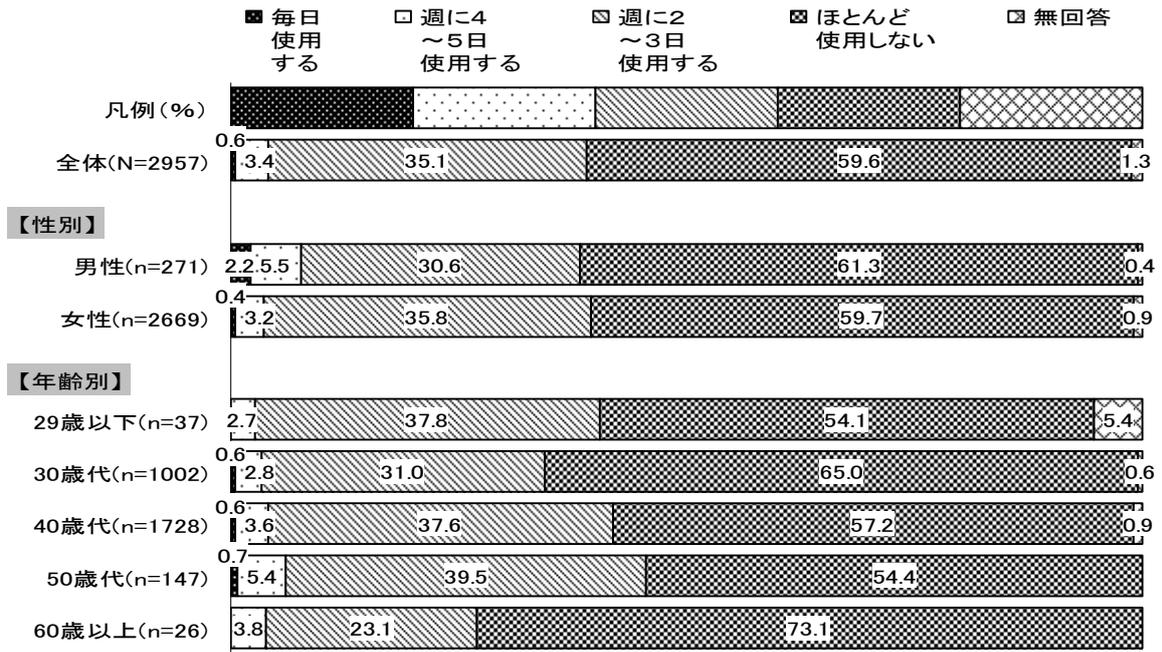


◆朝ごはんの主食について



◆調理済み食品・インスタント食品の使用頻度

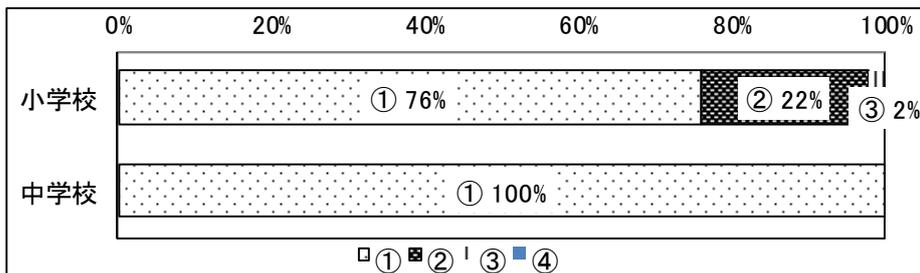
年齢別では、「ほとんど使用しない」が60歳以上で73.1%、20代で54.1%



○学校給食親子料理教室実施後のアンケート調査結果より（保護者対象）

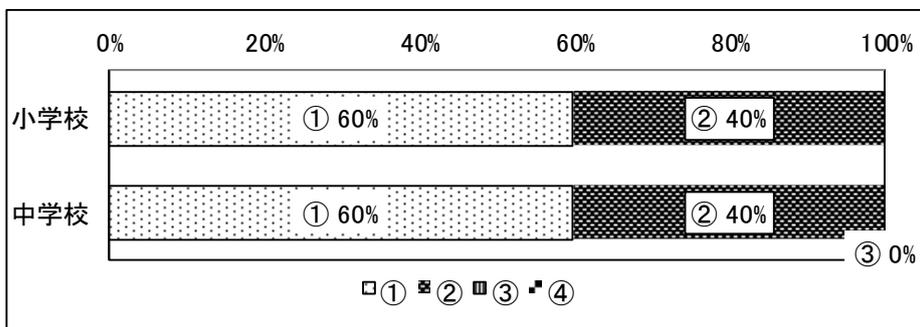
◆地域、地域の産物のすばらしさを理解する機会となったと思いますか。

①思う ②やや思う ③あまり思わない ④思わない



◆家庭で、自ら進んで（あるいは家族と一緒に）料理することへの意欲につながったと思いますか。

①思う ②やや思う ③あまり思わない ④思わない



4 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

○初の取り組みである学校給食親子料理教室は、地場産物を活用した学校給食メニューを、生産者や食品加工関係者など地域の方にも参加していただき、親子で作って食べるという取り組みであった。地場産物を取り入れたことにより、地域や地域の産物・農林水産業への理解を深めたり、感謝の気持ちを抱くことにつながった。また、親子で作ることにより、料理することの楽しさを体感し、自分で作り食べることの大切さを学ぶ機会となった。保護者のアンケート結果からも、その効果が感じられる。体験学習を取り入れた親子料理教室の取り組みを通して、今後、学校・

家庭・地域における食育の輪が広がることに期待できる。

○鳥取市学校給食ソングの作成に当たり、小中学校児童生徒を対象にタイトルを募集したことにより、児童生徒が学校給食や鳥取の食について理解を深めたり、意識を高めたりする機会となった。この学校給食ソングは、栄養教諭・学校栄養職員が考案した歌詞を「鳥取市学校給食ソング検討部会」で補作し、地元の専門家の曲付けにより、素敵な曲が誕生した。地元生まれの心あたたまるこの歌を活用して、本事業の鳥取市テーマ「食でつなげよう学校・家庭・地域の輪～ふるさとの食を学び、楽しみ、実践するとっとりっ子を目指して～」に沿った食育を展開したい。

5 各都道府県教育委員会における事業成果の活用について

○H26年度実施の栄養教諭研修等において事業成果を啓発する。

(成果指標)

- ・朝食を毎日食べる子の割合：小5年 99.4% (99.0%) 中2年 98.3% (99.3%)
- ・学校給食用食材の県産品利用率：71% (69%) ※H25.2学期末現在
- ・食に関する全体・年間指導計画の作成率：小学校 90% (87%) 中学校 58% (52%)
※()内数値：H24年度

6 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

(鳥取市)

○地場産物生産者の方との交流給食会では、給食の時間に食べながら話を聞いたり、質問したりするスタイルで、児童生徒にとっては、食べることや聞くことに集中することが難しいように見受けられた。今後、各教科との連携や総合的な学習の時間を活用した交流給食会の実施により、効果を高めていく。

○アンケート調査から得られた結果を分析し、今後の食に関する指導や施策に生かす。

○本市には栄養教諭が2名（1名育児休暇中）配置されているが、鳥取市の学校給食を通じた食育事業に全て関わり、1人で負担を背負う状況にある。アンケート結果から、栄養教諭配置による効果も得られており、本事業の実施により、栄養教諭を中核とした食育の推進が、今後ますます重要であると感じた。今後も、計画的・体系的に、学校における食育の推進の中心的な役割を果たす栄養教諭の配置拡大につながる事業展開を目指したい。

(鳥取県)

○食に関する指導の全体・年間指導計画の作成率向上：各教育局等と連携して働きかけを継続する。

○児童生徒の食生活調査結果の活用：朝食喫食率は向上したが、内容については不十分である等、今年度の調査で明らかになった。児童生徒の望ましい食習慣の定着を目指して、さらに食育の推進が必要である。

○家庭・地域との連携：保護者の意識や関心に、二極化の傾向が見られるとともに、食育の重要性は理解しても日々の実践や習慣化には至っていない。学校と家庭が今後も連携しながら、継続して食育に取り組んでいくことが大切である。